## SRM学会 2024年度関西部会開催

象からでも新たな発見や

論のもたらす研究の可能

地震被害と比較しつつ強

## <sub>理事</sub>側「ウェルビーイングの醸成法

裁判所参与員)の歓迎の言葉に続き、上田理事長が開会を宣言。その 後、亀井事務局長の司会により、2氏による研究報告と上田理事長の講 災)の総合司会により、関西部会担当常務理事の山田秀樹氏(大阪家庭 堂大会議室で開催した。当日は副理事長の亀井弘明事務局長(日新火 勇専修大学名誉教授)は8月3日、今年度の関西部会を大阪市中央公会 ソーシャル・リスクマネジメント学会(SRM学会、理事長・上田和

報告。戦時下における戦 関する一考察」と題して おける論理の落とし穴に 断士・社労士事務所)が 「リスクマネジメントに 案の流れを、ロジカルシ によるソリューション提 という二つの拡張的推論 帰納法とアブダクション 上田氏

湺

劍

事

Ħ

軽減に向けて展開された の事例を取り上げ、損害

索宁

熠

務理事、淺津中小企業診

最初に淺津光孝氏(常

略上のリスクの課題解決 そこから、それぞれの推 ブダクションによる推論 検討を行った。さらにア 論のプロセスの特徴と長 整理し可視化を行った。 ンキングの手法を用いて 所・短所を洗い出し比較 試みた。未知の情報や現 たな展開に対する考察を けるAIの参入という新 た。一方、課題解決にお 段階を追った解説を行っ プロセスの流れに関し、

された偶発性のメカニズ づき、アブダクションの て、自身の研究論文(オ を応用した研究事例とし ーケストラにおける意図 ムの究明がテーマ)に基 淺津氏、 饗庭氏が研究報告

る知の探索がもたらす創 よび、それに伴う多方面 生成過程での試行錯誤お の研究者との交流におけ クションによる副次的な アブダクションのAIに でき、高い創造性をもっ 革新の仮説を生むことが はない優位性、有用性を た発見や革新をもたらす メリットとして、仮説の 王張した。また、アブダ

る。その原因の所在やソ に著しい遅れが生じてい 報告を行った。冒頭、 ソーシャル・リスクの検 6年能登半島地震にみる 損保ジャパン)が「令和 救助・救援や復旧・復興 研究の問題の起点として 証」をテーマとして研究 「今回の地震において、

性について言及した。 続いて、饗庭正氏(元

た。全国平均を大きく上 クを、①高齢化②社会イ フラの問題点や小規模自 せ、老朽化した社会イン の脱出や避難を困難にさ 回る高齢化が、家屋から 類して背景説明を行っ 耐震化率⑤その他―と分 ンフラ③小規模自治体④ 出したソーシャル・リス

ーシャル・リスクとの関 遅れにつながったことを 多発化、複雜化、複合化 指摘し、今一度ソーシャ ーシャル・リスクの同時 として、今回の地震はソ したことが、さまざまな

発性を挙げた。

る革新的な仮説を導く推 で、アブダクションによ おいて、王道としての実 証に基づく研究と並ん 結びとして、経営学に 点挙げ、特に被害形態の 多様化について、過去の 連を検証し、今後の課題 た。次に地震の特徴を5 等にも言及する」と述べ



山田氏

亀井氏

淺津氏



饗庭氏 関係を持つ

講演を終了した。

続いて今回の地震で抽

震化率の低さ等の現況に ついて報告した。まとめ 治体の対応の在り方、耐 ウェルビーイングの定義 ~」と題し、講演した。 とができる雰囲気の良い ネジメント・プロッセス と『つながり』重視のマ 成法~Well—bei 会社」と主張しており、 り、つながりを感じるこ で危機に強く、夢があ 度に発揮でき、自由闊達 ウェルビーイングが最高 会社像について「社員の 日ごろ考えている理想の n g経営の核となる要因 して総括した。 最後に、上田理事長が 上田氏は従来、自身が 「職場におけるW -beingの醸

の辞を述べ、関西部会を 最後に戸出会長が閉会

ル・リスクの原点に立ち 害に備えるべきだと力説 返りつつ、今後の自然災 司、後輩、こういった人

的に良好な 良好で社会 としては 「心身共に 態」としている。また、 たちとの関係や地域との 例研究を通じて実証し 識的であり、逆境からは として、答えは極めて常 いて、「危機に陥った個 関係が良い関係にある状 の場における「褒めるこ た」と強調し、多くの事 う問題を投げ掛け、結論 で違うのかどうか」とい のウェルビーイングの場 違うのか。今日のテーマ いて、個人と組織でどう 上がっていった要因につ 人や組織が危機からはい ていたレジリエンスにつ 上田氏は以前から研究し 論構成に取り入れ、仕事 た。自身の苦い経験も理 との『つながり』が必要 できない、何か(誰か) と」の重要性を強調し、 い上がるには「独りでは 台はどうか。個人と組織